

開催趣旨

冷害に繰り返し苦しめられてきた東北の米作り。今日の東北の米作りをみると、稲作農家、技術開発に携わった研究者ならびに行政関係者の絶え間ない努力の結晶とも写る。しかし、現状の農業とその生産環境を俯瞰すると、その努力が後世に引き継がれ、また確実に伝えられていくのであろうか。米作りの技術は過去着実に進歩・普及してきたが、生産現場でそれが活かされてきたのは、「自然を読み、稲と語る」先人たちの知恵と指導力があったからにほかならない。東北の農業と文化的な発展は、これら先人たちの鍬が大地を耕し、人々を培ってきたことによる。

そこで、先人の知恵を継承する東北の代表的な先輩を囲み、自然を読み、稲と語り、そして心を耕す術を学び、気象変動下の今日の稲作・農業のこれからを考える。

内 容

進 行 中山 正義（東北農業試験場）

【開会挨拶】 井上 隆弘（東北農業試験場長） 9:30～9:50

【対 談】 原田 津（総合司会：農文協常務理事）

一先人の知恵“寒だめし”の読み方、農事への活かし方 9:50～10:50

●白鳥 文雄（宮城県一迫町菊栽培農家、寒だめし民間気象予報家）

○徳永 光俊（大阪経済大学日本経済史研究所長）

一山・水・田の神の宿る“たろし滝”が語る長年の自然、氷柱、稲の読み方一

10:50～11:50

●板垣 寛（岩手県石鳥谷町稲作農家、たろし滝測定保存会長）

○古澤 典夫（元岩手県立農業試験場長）

昼 食

一自然を読み、稲と語り、冷害を防ぐ技術のすべて一

13:00～14:00

●小林 福蔵（青森県六戸町稲作農家、平成5年冷害時に被害を回避した篤農家）

○金澤 俊光（元青森県農業試験場長）

一情報技術革新の進む今日、次世代を担う農家の生き方一

14:00～15:00

●水稻冷害早期警戒システムモニター・仙台管区气象台

○鳥越 洋一（東北農業試験場）

休 憩

【総合討論】 原田 津・鳥越 洋一（司会）

15:10～16:30

西尾 敏彦（コメンテーター：農林水産技術情報協会顧問）

【閉会挨拶】 亀若 誠（農林水産技術情報協会理事長）

16:30～16:45